

名神高速道路全通60周年と 新名神高速道路の整備

名神高速道路の効果

名神高速道路は、日本で最初的高速道路として整備され、2025年には1965年の全線開通から60年を迎えました。この間、日本の大動脈を形成するとともに、日本経済の発展に大きく貢献してきました。



栗東IC～尼崎IC間
開通式
(1965.7.15)

名神高速道路全通に
伴い日本初的高速バス
が誕生
(1965年)

▶日本初的高速道路の開通で 時間短縮

名神高速道路の全線開通により、東海～近畿間の移動時間が短縮されました。

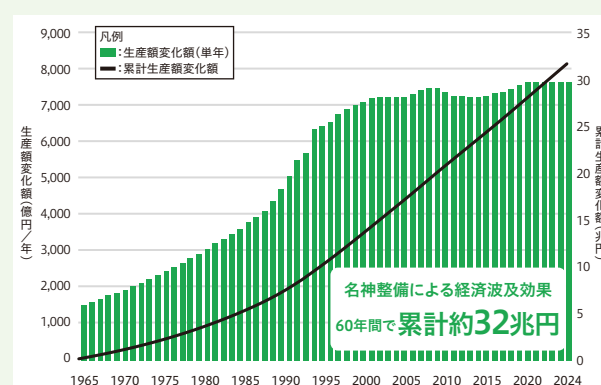


▶開通から累計47億台のご利用

名神高速道路は、周辺道路ネットワークの整備とともに通行台数が順調に増加し続け、1963年の一部開通から2024年度まで累計約47億台と、多くのお客さまにご利用いただいています。

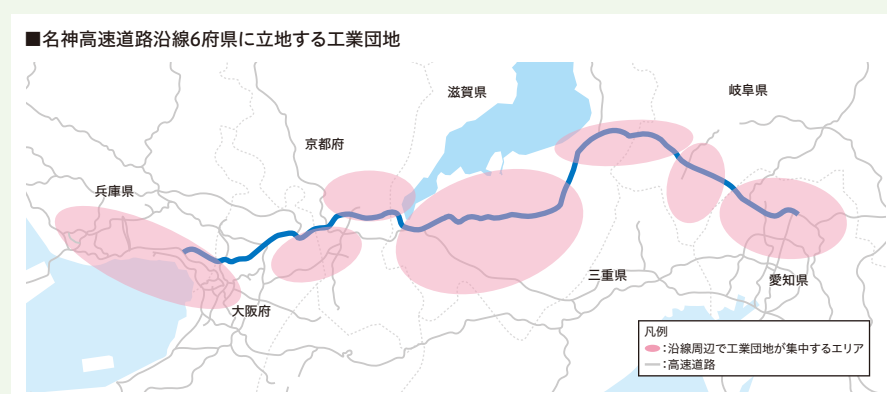
▶60年間で累計32兆円の経済効果

名神高速道路の全線開通後60年間の経済波及効果(生産額変化額)を算出したところ累計約32兆円となり、沿線府県の地域経済に大きく貢献しました。



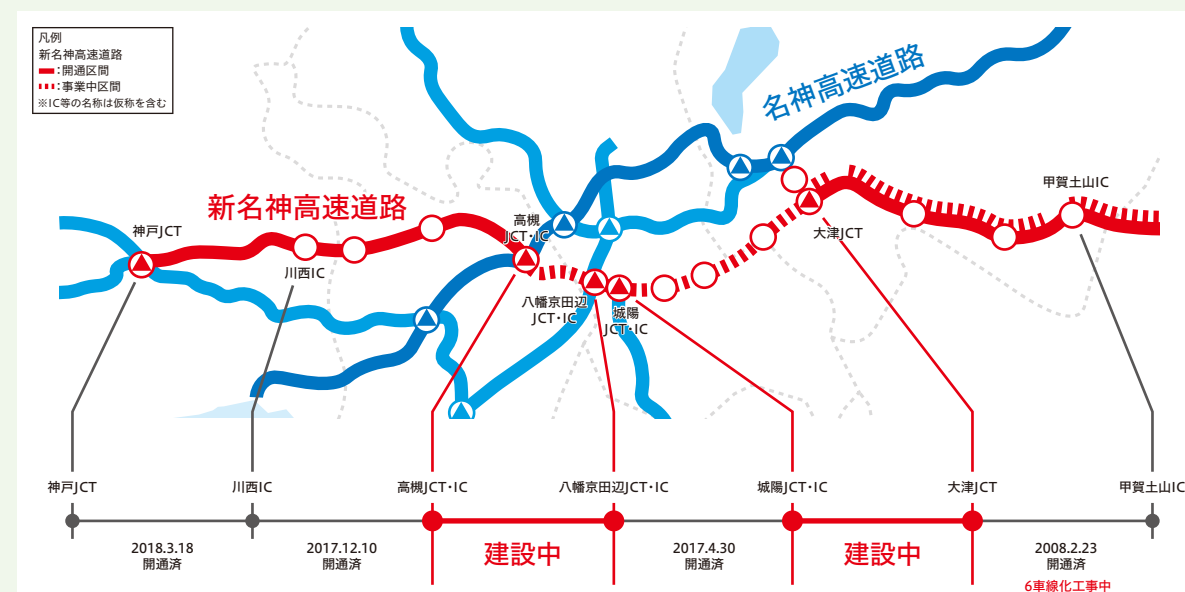
▶沿線への工業団地の立地

名神高速道路の沿線6府県(愛知県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県)の工業団地は、その約5割の数が名神高速道路沿線市町(沿線6府県のうち名神高速道路の各ICから5km圏内の市町)に集中しており、名神高速道路へのアクセスが良いことを利点として多くの企業が沿線に進出しています。



新名神高速道路整備によるネットワークの強化

現在、名神高速道路は交通量の増加による交通混雑が頻繁に発生しています。また、巨大な産業・経済のほとんどが自動車交通に依存しているため、それを支える役割が断絶した場合、国民生活への影響は壊滅的ともいえる状況になると予測されます。これらの影響を緩和するためにも、新名神高速道路の建設を進めることで、名神高速道路と相互に機能を補完し、国土軸のダブルネットワークとして、関西圏と中部圏を結びます。



▶高槻JCT・IC～神戸JCTの開通で渋滞が減少

2017年12月から2018年3月にかけて高槻JCT・IC～神戸JCT間の新名神高速道路が開通することで、両区間は名神・中国ルートと新名神ルートを選択できるようになりました。



新名神ルートを迂回路としてご利用いただくことが可能になったことで、建設後約50年が経過した中国道では、終日車線規制や夜間通行止めを伴うリニューアル工事に着手しました。



高速道路上の情報板でルート別の所要時間を事前にご案内しています。より所要時間の短いルートを選ぶことができます。

▶沿線で物流施設や大規模小売店舗の立地が進んでいます

高槻JCT・IC～神戸JCT沿線やその周辺地域で、物流施設や大規模小売店舗の立地が進んでいます。



TOPICS

未開通区間の建設・6車線化工事を進めています

「未来につなぐ信頼の道」を全線通してのスローガンに、現在、未開通の大江JCT(仮称)～城陽JCT・IC、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・ICの建設及び甲賀土山IC～大江JCT(仮称)の6車線化事業を進めています。今後も、安全・安心で快適な新しい交通サービスをお客さまに提供できるよう、地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。

全線開通後の主な整備効果

時間短縮

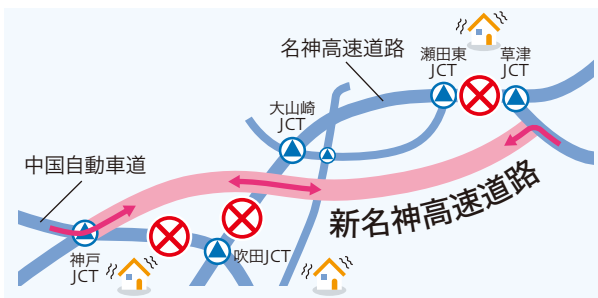
二大都市圏を最短で結ぶことにより所要時間の短縮を実現し、交通の利便性向上や生活範囲の拡大など地域の活性化が期待されます。

所要時間の短縮



災害時の代替道路の確保

日本の大動脈である名神高速道路～中国自動車道には代替ルートがなく、阪神・淡路大震災においては、高速道路ネットワークが一時的に機能停止になりました。新名神高速道路はこのような重大事故や地震発生時などの緊急時に代替道路機能を果たします。



担当者の声 着実な現場の推進

宇治田原IC～城陽JCT・IC間では、山砂利採取跡地という特殊な現地環境下での構造物の構築や大規模土工を施工しており、隣接工事との複雑な土配調整や関係機関との協議・調整を綿密に行いながら、着実に施工を推進しています。また、建設業全体が抱える生産性・安全性の向上に寄与する取り組みとして、高速道路の本線建設工事としては全国初となる盛土の自動化施工に挑戦しています。引き続き、安全第一で工事を推進してまいります。

関西支社 新名神京都事務所 城陽東工事区 川崎 巧貴



特集

工事の安全管理 ～重大事故の防止を徹底～

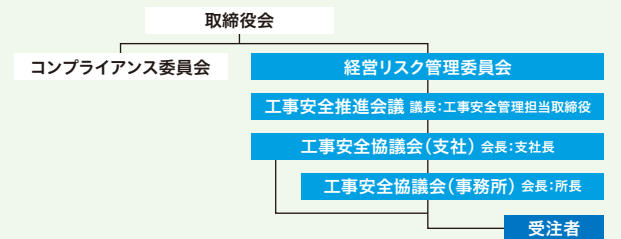
当社グループでは、全ての工事において安全を第一に考え、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標のもと、社会から信頼される会社であり続けられるよう、工事安全管理に取り組んでいます。2016年の新名神建設工事における有馬川橋橋桁落下事故を契機に、「工事安全管理規程」を制定し、受発注者が協力して、工事着手前に重大事故リスクを洗い出し、必要な予防措置や是正措置などの安全対策を確認したうえで、工事に着手する安全管理を推進しています。



現場での安全パトロール

▶工事の安全管理体制

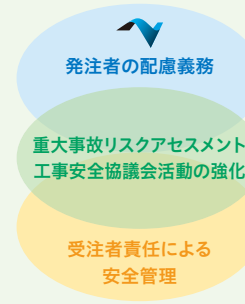
工事中事故を経営リスクとして捉え、経営リスク管理委員会内に工事安全推進会議を設置しています。全社的な情報共有による安全施策の水平展開や意見交換、安全技術の検討を行い、工事安全レベルの向上を図っています。



▶重大事故リスクマネジメントシステムの着実な運用

「受発注者一体となりリスクコミュニケーションを行い、安全な現場を目指す」ため、重大事故リスクアセスメント※を軸とした、重大事故リスクマネジメントシステムを着実に運用し、工事中事故撲滅に向けた安全管理に努めています。

※受注者が施工計画策定時に抽出する重大事故リスクについて、受発注者間で確認を行い、予防措置または是正措置などの安全対策を協議するもの



▶「工事安全誓いの日」

新名神高速道路有馬川橋橋桁落下事故のあった4月22日を「工事安全誓いの日」と定め、4～5月に重点的に工事安全性向上の取り組みを実施しています。



有馬川橋事故の記録映像を視聴

▶社員教育

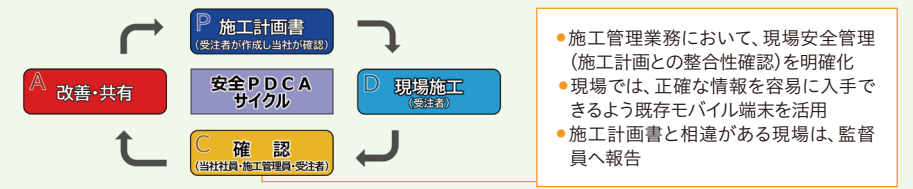
階層別研修や外部講師を招いた講演会等で、知識向上と意識高揚を図っています。



工事安全管理責任に関する弁護士講義

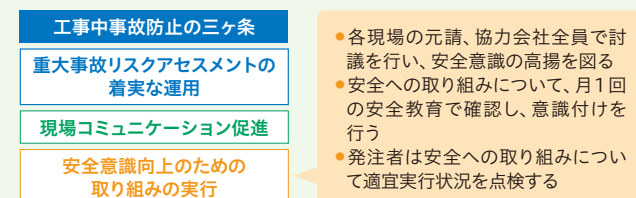
▶受発注者による現場確認と指摘事項の水平展開

「施工計画書と現場施工に相違がないか」現場で受発注者が整合性を確認し、指摘事項を水平展開する取り組みを実施。安全PDCAサイクルの確立により、重大事故撲滅につなげます。



仲間の命を皆で守る!!

2025年度は、「仲間の命を皆で守る!!」を工事安全の基本方針とし、工事中事故を防止するための三ヶ条を中心とした取り組みを実施しました。



現場の緊張感や臨場感が伝わるよう筆文字で書いた基本方針を現場・事務所などに掲出し、受発注者の双方で工事安全の意識徹底を図りました。



ヘルメット用ステッカー

▶この取り組みにより、2025年度は特筆すべき重大事故は発生しませんでした。